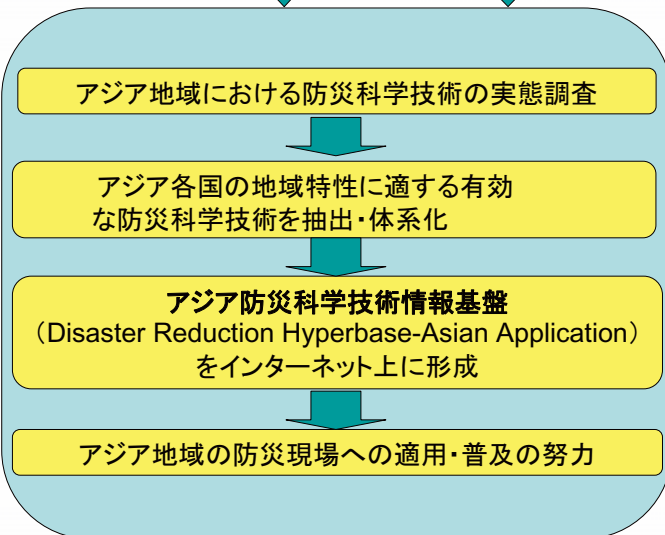


災害軽減技術の国際情報基盤の形成

■ 研究目的

- アジア各国の地域特性に適する有効な防災科学技術を集積し、アジア防災科学技術情報基盤 (DRH-Asia: Disaster Reduction Hyperbase-Asian Application) をインターネット上に形成する。
- この資源により、防災現場の対応をサポートする。
- わが国の国際防災協力のための知的資源を形成する。
- 世界的広がりを持つ防災科学技術情報基盤 (DRH-Global) の形成に主導的な役割を果たす。



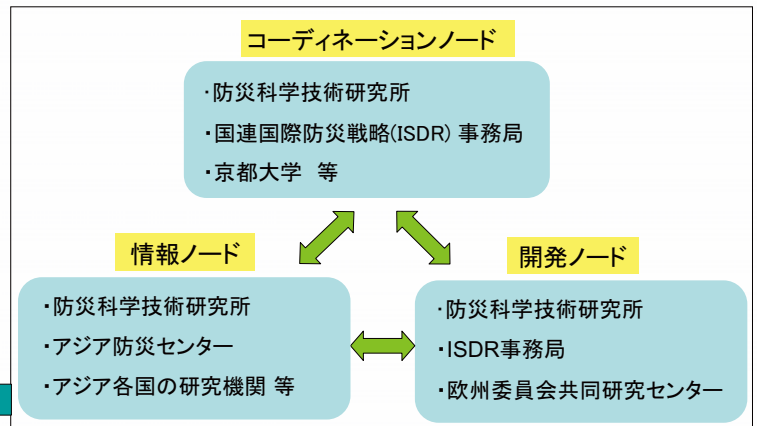
本研究は、国連防災世界会議(2005年1月)において日本政府が配布した“Disaster Reduction Technologies List on Implementation Strategies”を発展させ、同会議で採択された「兵庫行動枠組」の実施に貢献しようとするものです。

■ 研究内容の新規性

- 双方向の知識ベース
先端的防災技術を日本から一方的に発信するのではなく、アジア各国に存在する防災の知恵(叡智)をも対象として吸収することにより、アジア地域で共有する防災科学技術情報基盤を形成。
- 災害防御のノウハウに関わる知識・叡智を体系的に収録
従来の防災情報データベースは、災害データとリスク情報を収録。
- 総合技術体系の構築
「もの」の技術だけでなく、それらを真に役立てるための情報発信方法や普及手段など、「プロセス」の技術を含めた総合技術体系を構築。
- 「現場への適用戦略」規範の適用
EqTAPプロジェクト(1999-2004)の成果を活用。



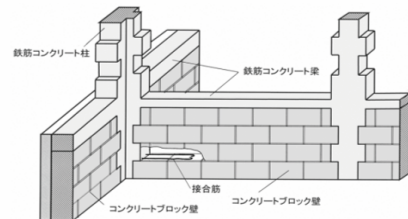
■ 実施体制



■ 対象とする防災科学技術

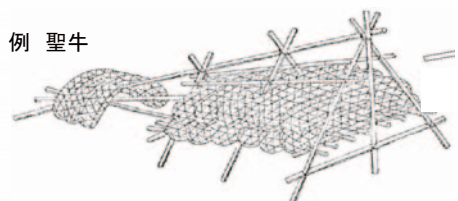
- 現場への適用戦略を持つ防災科学技術

例 複合組積造建物の耐震性向上技術



- 地域に根ざして発達し他地域へも広く適用可能な防災の知恵

例 聖牛



河岸侵食防止機能を有する伝統治水工法

■ アジア防災科学技術情報基盤のイメージ

例 グリーンベルトによる津波災害軽減技術

